

# 参考資料

## 現場の声

実際に熊本地震を経験した、現場の声をあつめました。

今までに経験のしたことない災害に、想定外の出来事も多く起こります。

自社で災害対応について検討する際の、参考にして頂けると幸いです。

### 1. 屋根養生

**現地の声：**ブルーシートは台風被害用に200枚位を備蓄してあったが2～3日でなくなった。トータルでブルーシートは2000枚位使っている。ブルーシートも土嚢袋もUVカット仕様のものでないと3ヶ月するとぼろぼろになる。特に土嚢袋は中に瓦を入れている場合は、袋が破れ瓦が落下する危険がある。6月に気付き変えた。すぐに劣化すると知っていれば、最初からUV加工されたもので対応し、数百件の2回目に行かずに済んだ。

ブルーシート養生は、あくまでも応急処置であって、雨漏りを一時的に防ぐもの。しかし工事開始の目途が立たず、長期間そのまま使用していたため風や直射日光で劣化してしまいました。土嚢袋、紐も同様に長期間使うには向きません。

#### 【あらかじめ丈夫なものを用意しておきましょう】

##### ■ブルーシート

生地が厚く丈夫で、寒冷地や猛暑での使用が可能な#3000～ #4000や厚手の防災シートがお奨め

##### ■土嚢袋

土嚢袋を2枚重ねにし耐久性を上げたり、UV吸収剤入りのポリエチレン袋がお奨め

※中身は「砂」または「クラッシュラン」がおすすめとのことです。割れた瓦を入れるのは危険！

##### ■ひも(ロープ)

ビニール製は弱いので、布製がお奨め

#### 余震の続く中、屋根にのぼらせない配慮も

屋根の修理をすぐにやってほしいと、お客さまより要望が沢山きます。しかし、余震が収まらず、いつまた大きな地震が来る可能性がある中、社員にそんな危険を冒すことはできなかったという声もありました。なぜ対応ができないのか？お客さまに納得いただくようにお話するのも重要となります。

### 2. 職人の宿泊手配

**現地の声**：次々とホテルの空き室が埋まっていく。せっかく職人がきてくれても泊まる場所がなくなってしまうので、早期手配が大切と感じた。

### 3. 社員のケア

**現地の声**：東日本では従業員のストレスや鬱の問題がかなり出たときいた。そのため、毎日一人ひとりに声をかける、ストレスチェックをする、頑張りすぎない、交代で休みをとらせるなどの社員の心身のケアに取り組んだ。

### 4. 安否確認

**現地の声**：フェイスブックと電話を使い安否確認を実施。日頃から訓練しているにもかかわらず、年配者はフェイスブックをみないという問題があった。また「無事な人は『いいね！』を押してください」という内容で送ったが、無事の定義がないため、『いいね！』を押せないという事態に陥った。怪我があったか、家屋被害があったかなど、明確な内容で送れるように文章を平時に用意しておくべきだった。

### 5. 材料費や人件費の高騰

**現地の声**：震災後は、材料費と人件費がアップする。事業継続のためにも、早期に単価アップの打ち合わせを行い、施工中や施工前のお客さまへ、しかるべき方法で通知を行い、双方納得いくようにすべきであると感じた。

### 6. 物資の不足

**現地の声**：店頭から食料や飲料水はなくなり、職人も不足した。日頃から付き合いのあった他県と同業者が支援物資や職人の派遣をしてくれ非常に助かった

### 7. 他社の台頭

**現地の声**：他県より他社が新築の受注をごっそり持っていく。対抗し価格を下げるのではなく地元ならではの利点や住宅づくりの真摯な姿勢を貫き、長く住み続ける家づくりについてお客さまが焦らないように導いてあげべきと感じた。